



佐々木中学校だより

E-mail sasaki-jhs@inet-shibata.or.jp

電話 0254 (27) 2505

「スマートポリシー」を身に付け、充実した生活を送ろう

佐中生や家族のみなさんは毎日どのくらい携帯電話やスマートフォン、あるいはソーシャルメディアを使っていますか。近年、社会のIT化が急速に進み、スマートフォンやタブレット端末などの情報機器の普及が急増しています。以前は、中学生にとって情報端末機器は不要と誰もが考えていた時代もありましたが、これからの未来を生きる中学生にとっては、AI（人工知能）を上手く使いこなす能力や技術を身に付けることが、ますます重要なこととなっていくことでしょう。

スマートポリシー 

- 1 自分で決める！メディア時間
- 2 直接言おう宣言！大切なこと
- 3 情報は見直し確認！クリティカル

スマートフォン、インターネットなどを利用する上で、心がけていくこと。

スマートフォンに代表される情報端末（以下「スマホ」と表記）は、とても便利なツールで、私たちの生活に不可欠なものになってきています。中学生には、「スマホ」の便利さを効率的に活用することと同じくらい、「スマホ」のリスクと言われる面にも関心をもち、上手に付き合うことが大切です。また、子どもの身近にいる大人である私たちも、「スマホ」のよい利用者である姿を生徒たちに示していく必要度がますます高くなっています。

佐々木中学校には、平成27年度に生徒たちが作った「スマートポリシー」（右上を参照）があります。また、私たちの学校と同じように「スマホ」と付き合うためのルールが設けられている学校も数多くあります。兵庫県のある中学校では、次のような「ネット・スマホ4ヶ条」を取り決め、いつも生徒の目に届くところに掲示してあります。

- | | |
|-----|-------------------------|
| その1 | 夜10時には電源を切る |
| その2 | 1日の使用時間は1時間以内 |
| その3 | 危険なサイトを開いたり、アプリをとったりしない |
| その4 | 人の悪口を絶対に書き込まない |



「スマホ」とどのように付き合っていけばいいのかについては、佐々木中学校区でも、今年度学校保健委員会のテーマとして取り上げ、小中学生が集まり話し合いました。（中学校だより第11号（10月12日発行）も併せてご覧ください。）

東北大学の川島隆太氏監修の研究によると、「長い時間勉強している子どもでも、「スマホ」の使用時間が長くと、せっかくやった学習内容が消えてなくなってしまう」と考えられるような具体的なデータが集まり始めているとあります。このことを、「脳科学の知見から考えると、「スマホ」の長時間使用により、前頭葉の活動低下が引き起こされている」と述べています。具体的には、通信アプリなどを頻繁に使う子どもは、〈メッセージを送る→返信の確認をする→返信を読む→送る〉というサイクルをくり返すことを強いられる中で、中学生として十分な集中力を身に付けることができずにいるケースが目立ち始めているとのことです。

この研究では、少し極端な事例と感じられるかもしれませんが、「たとえ1時間以上勉強している生徒であっても、2時間位「スマホ」を使っていると、勉強もほとんどしないけれど「スマホ」も使わない生徒と同程度の学習成果に留まってしまう」というデータも集まっているそうです。他にも、「就寝前に「スマホ」を使っている生徒には、睡眠の質の低下が現れ、生活習慣の乱れから学校生活への影響が出る」とか、「家族で過ごす時間が多い子どもほど、言語能力が高い」など様々なデータについても、現在調査が進んでいるそうです。楽しい冬休みが始まります。家族で一緒に我が家の生活習慣を見直してみましよう。



参考資料：「2時間の学習効果が消える！やってはいけない脳の習慣」（川島隆太他 青春出版）

*「佐々木中 保健だより（9/26号/10/6号）」でも「スマホ」の影響を取り上げました。

1年生 中学生の力で佐々木を活性化プロジェクト～中間発表会～

1年生は、総合的な学習の時間の中で、自分たちの住む「地域」を知ることを通して、地域の現在の課題や今後のあるべき姿を考えています。

11月30日（木）、新発田市内でさまざまな立場から「まちの活性化」に取り組んでいらっしゃる4名の方に来校していただき、現段階の1年生のプロジェクトについてアドバイスをいただきました。また、市内各中学校の総合的な学習を担当する先生方にもご参観いただき、前半は、一緒に話し合いにも加わってもらいました。1年生がより多くの人たちの意見や考えに触れる話し合い学習を通して、自分たちが考えてきた「地域活性化のプラン」をさらに練り上げる学習の時間となりました。

1学期、自分たちの住む「地域」について考え、実際に4件のお宅を訪問し、佐々木地域の古い歴史、地域の抱える課題、地域のよさを生かした農業などについてお話を聞きました。そこで、改めて、自分たちが生活する地域のよさや課題を知ることができました。

2学期、これを受けて、自分たちの課題を「**地域の大人と子どもの交流が少ない**」ことと設定し、その課題解決を目指そうと、「**中学生の力で佐々木を活性化プロジェクト**」を企画し、実行することにしました。活性化とは何だろう？どうなれば活性化なのか？など、何回も話し合いを重ね、最終的に、イベントをやってみてはどうかということになりました。イベントでは、来てくださった方にそばを振る舞って、クイズや劇をみてもらってはどうかという企画を考えました。

11月30日（木）は、「佐々木を活性化する」という目標に近づいていくために、「課題の深掘りを通して、プロジェクトをブラッシュアップしよう」という目標を掲げ、授業に取り組みました。自分たちの企画を、後藤さん（佐々木耕起組合代表）、西村さん（街角こんぱす編集長）、関川さん（市役所まちづくり支援課）、五十嵐さん（管理栄養士）に聞いていただき、一緒に語り合う中で、新しい視点をもつことができたようです。仕事を通して地域の活性化や地元の発展に力を注いでいる方と話し合う中で、1年生は日頃学級でクラスメイトと考えを交わしてきた話し合いとは違った、内容の濃い話し合いの中で、自分たちが今まで気付かなかったこの活動の素晴らしさや、今後クリアしていかなければならない課題や問題点にも気付いていました。



今年度の学習は、学級担任や学年部職員だけでなく、特定非営利活動法人「みらいず works」の学びクリエイターの皆さんにご協力いただき、共に創りあげています。

学習後の生徒たちからは、次のような感想が聞かれました。

1年男子K 他の中学校の先生からとても興味深い意見をたくさん聞きました。自分たちの考えには、まだまだ足りない所があることが見つかったので、よかったです。

- 1年女子M** 私が考えていたプロジェクト案について、大人の方から「一步踏み出すことが必要」と言われたことが心に残りました。このプロジェクトを実行していく前に、まだ考えなければならないことがたくさんあることに気付かされました。
- 1年男子T** 地域の方が元気になってくれるようなプロジェクトが大切だと思いました。円卓を使ったトークではいろいろ話ができよかったです。プロジェクトをするだけでなく、プロジェクトが終わった後もずっと交流が増えていくような企画が大事だと思いました。
- 1年男子Y** 自分たちが考えているプロジェクト案では、どんな目的で行うのか、ターゲットとなる対象の方々の具体像などがまだあやふやだから、細かな計画をイメージしづらいのかなと感じました。佐々木地域は目立つような特色が少ないと思っていましたが、細かく見ていくと、他に自慢できることやPRできることがたくさんあることが分かりました。
- 1年女子R** 今回たくさんの方と話し合いをしてみて、私は、挑戦することが大事だなと思いました。「やってみないと分からないから、挑戦してみる事が大事」というお話を聞いて、私も恥ずかしがらずに挑戦しなきゃだめだと改めて感じました。
- 1年男子N** 同じグループで話し合いに加わっていた大人の方から、失敗談なども聞けてとても参考になりました。今回の学習に限らずいろんな場で、分からないことがあったら質問して、必要なことはメモをとり、自分からもできるだけ積極的に話すことが大事だと思いました。
- 1年女子M** 自分たちのグループでは「劇」を作ることばかりを考えていました。しかし、いろいろな人の話を聞く中で、その劇をどんな人に見てもらいたいのか、劇を通して地域活性化の何につなげていくのかということも考えなければならぬと学ぶことができました。



12月5日(火)の生徒朝会で、1年生が、現在の総合学習で取り組んでいる「プロジェクト」の内容を、2・3年生に向けて発表しました。発表の最後に、1年生代表の生徒から「今後、私たち1年生が実際にプロジェクトを立ち上げ、イベントを開催したときには、2年生・3年生のみなさんからもどんどん参加してもらい、プロジェクトを盛り上げてほしいです。」という話がありました。



(学習の様子は、新潟日報(平成29年12月14日発行)にも掲載されました。)

2年生 群読と琵琶で語る「平家物語」

1月28日(火)、薩摩琵琶奏者の吉川さん、田中さんのお二人をお迎えし、2年生が国語で学習した「平家物語」を琵琶の弾き語りで鑑賞しました。

琵琶(びわ)は、尺八(しゃくはち)や三味線(しゃみせん)などと同様に和楽器の一つです。「平家物語」は、本来「平曲」として、琵琶法師が弾き語り各地を回ったことが始まりとされています。

はじめに、2年生全員で、平家物語の有名な冒頭(祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰のこころをあらはす。…)と「敦盛の最期」を群読した後、

「平家物語」を鑑賞しました。「敦盛の最期」には、今も昔も変わらぬ親子の情が描かれています。一緒に鑑賞いただいた保護者の方からは、「琵琶の趣深い音色を、2年生の

生徒と一緒に聴く機会を得て、平家物語を学習した中学生時代に戻ったような気持ちになりました。」との感想をいただきました。以下に、2年生の授業後の感想のいくつかを紹介します。

2年女子S

琵琶を聞くのは初めてだったので、とても貴重な体験になりました。琵琶の弦が絹で出来ていて、気温や湿気などの環境の変化で音が少しずつずれてしまうというお話を聞き、驚きました。演奏の前には、講師の方が、吹奏楽部で私たちがやっているチューニングのような準備をしていたことにもおどろきました。演奏中には、琵琶の弦のほうをほとんど見ずに音を鳴らしている姿を間近で見て、すごいなと思いました。「耳なし芳一」では、いろいろな情景や音を琵琶で表現していて、それを聞いていておもしろかったです。演奏とともに歌ったり語ったりする声もとても太くて、きれいでした。また機会があったら、聞いてみたいです。

2年男子Y

琵琶の演奏を聴いて感じたことは、聴く前に想像していた音と琵琶の音が違っていただけです。三味線のような音がでるのかと思って聴き始めたけれど、琵琶の音はそれとは少し違って、初めて聴いた音だったので、50分間の授業の間、全然飽きることなく、琵琶の演奏を聴くことができました。また、「耳なし芳一」の物語の演奏では、誰かが歩いたり、物がすれたりする効果音も琵琶で上手に表現していて、その表現方法がスゴイと思いました。演奏を聴いていると、「耳なし芳一」の場面や情景が浮かんで来て、とてもおもしろかったです。今回の琵琶で語る平家物語の授業ではとてもいい経験ができました。

また、「耳なし芳一」の物語の演奏では、誰かが歩いたり、物がすれたりする効果音も琵琶で上手に表現していて、その表現方法がスゴイと思いました。演奏を聴いていると、「耳なし芳一」の場面や情景が浮かんで来て、とてもおもしろかったです。今回の琵琶で語る平家物語の授業ではとてもいい経験ができました。

2年男子K

講師の方による、「祇園精舎の鐘の声～」で読み始められた琵琶で語る平家物語は、僕たちが国語の授業で、全員で声を合わせて読む練習をした群読では試したことがないような読み方だったので、「こういう読み方もあるんだなあ」と思いながら聞きました。「敦盛の最期」の語りも、授業で勉強していたから、復習するように聞くことができたはずなのに、まるで別の物語を聞いているように感じるほど新鮮な体験でした。



2年男子 R

僕たちがクラス全員で読む読み方よりも、講師の方お一人での読み方の方に迫力があり、登場人物の熊谷の気持ちや、その場面で人物がどう思っていたのかが、琵琶による語りを聞いていてとても分かりやすかったです。また、琵琶の音が響くと、平家物語の雰囲気がとても感じられるようで、聞くことができ良かったなと思いました。授業の後で、講師の方から「琵琶を体験してもいいですよ」と言っていて、琵琶に直接触れることもできたので、とても貴重な体験になりました。



2年女子 A

琵琶の演奏はとても美しい音色で、講師の方による平家物語の語りも、私たちが読む読み方とは違う読み方を聞かせていただき、「すごいなあ」と思いました。「耳なし芳一」の語りでは、講師の方の読み方には、言葉一つ一つに気持ちが入っていて、登場人物の思いが聞いている私たちにもしっかりと伝わってくるような演奏でした。今回の授業で、初めて琵琶の演奏を聞くことができ良かったです。また琵琶の演奏を聞く機会があれば、ぜひ聞いてみたいと思いました。

2年男子 Y

講師の方による琵琶での平家物語の語りの最初の声を聞いたときに、鳥肌が立ちました。今回の学習では、琵琶という古くからの和楽器や講師の方の衣装など「和」の雰囲気を感しながら、平家物語を聞くことができ、とても貴重な体験ができて良かったです。

2年男子 R

講師の方の語りを聞いていると、一文一文に感情がこもっていて、声を震わせながら読んでいるように聞こえました。僕たちが教科書を読む読み方とはまったく違い、今回のような読み方があることが初めてわかりました。



2年生 職場体験報告会

10月に2年生が職場体験に出かけたことについては、学校だより12号でお伝えしたとおりです。その体験をまとめた職場体験報告会が、11月24日（金）に行われました。2年生一人一人が、10月の職場体験で学んだことや体験を通してこれからがんばりたいと思ったことについて、1・2年生全員に向けて発表しました。真剣な態度で発表するなかにも、笑顔あり、身振り手振りあり、会場からの質問に一生懸命に応えようとする姿勢ありと、職場体験を通じて一段階も二段階も成長した2年生の姿が見られました。



2年生の職場体験先での苦労や体験で得た学びを聞かせてもらった1年生は、来年度の自分たちの職場体験に向けて、少しでもかもしれませんが具体的なイメージを持つことができ、また、職場体験で挑戦してみたいことについて様々な思いをめぐらすことができたようでした



2年生の多くは、職場体験を通じて、「今まで以上に自主的に家庭学習に取り組まなければならない」「自分から進んであいさつを心掛ける」「自分が本当にやりたいこと（就きたい仕事）を見つける」「もっと体力をつける」「時間を守る」「毎日規則正しい生活をする」「笑顔を忘れない」「継続的な学習を積み重ね、学力をつける」など、希望する上級学校へ進学することや、将来の一社会人として必要な資質・能力を高めることを目指したしっかりとした目標を立てていました。



今後がんばること(アドバイスされたこと)

英語をがんばる

体力をつける

本当にやりたいことを見つける

今後頑張る事!!!

学習面

⇒志望校に合格出来るくらいの学力を身につける

⇒毎日の家庭学習をしっかりとる

生活面

⇒毎日規則正しい生活をする

⇒大きい声でしっかり挨拶をする

その他

⇒体力をつける



発表で感じたこと、考えたことの振り返り

身を乗り出して熱心に聴く1年生



一人一人の発表に温かな拍手



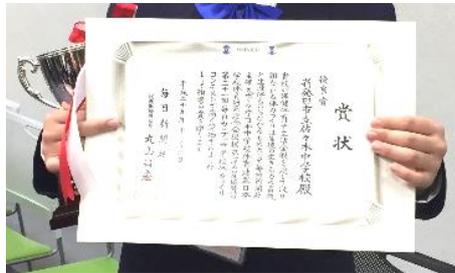
1年生代表 K くんから2年生へのお礼のことば

「2年生の皆さんの発表を聞かせてもらい、ぼくたち1年生も職場体験への興味を持ち始めることができました。ありがとうございました。」

毎日カップ全国「中学校体力づくりコンテスト」で優良賞を受賞

運動や授業を通じて「生きる力」の育成に取り組んでいる学校として、佐々木中学校の佐中サーキットや集団行動「巴」などの日常的な実践が、「第31回毎日カップ「中学校体力づくり」コンテスト」（毎日新聞社主催）で優良賞を受賞しました。

12月2日（土）に、東京の毎日新聞社本社で表彰式が開催され、生徒会長の I さんが全校生徒を代表して式に出席し、表彰状と記念のカップをいただいてきました。佐中サーキットトレーニングで、全員が励まし合い、協力し合う姿、そして、全員が息を合わせて取り組む集団行動「巴」を通して培う「自立」と「協調」は体力テストの結果のアップだけではなく、基本的な生活習慣の向上や学習や諸活動に取り組む意欲にもつながっています。佐々木中学校独自の取組である「佐中サーキット」、「集団行動 巴」、「佐中ウォークラリー」などの取組は、「健康でたくましい心身」をはぐくみ、生徒が毎日の学習に真剣に向かう土台になるという信念のもと、これからもこの特色教職員が一緒になって大切にしていきます。



ある独自の教育活動を生徒と

「毎日カップ全国「体力づくり」コンテスト」優良賞を受賞して 3年女子！

「佐中サーキット」や「集団行動 巴」は、私たち佐中生にとっては「当たり前」に取り組んでいる体力づくりです。今回の「優良賞」受賞はとても嬉しかったので、これからも大切に続けていきたいです。そして、優良賞という高い評価を得た「佐中サーキット」や「巴」に、普段から取り組める佐々木中学校の学習環境はとても恵まれているんだと改めて感じました。

新潟県ジュニア展で奨励賞を受賞しました

今年度の県ジュニア展に佐中から出品した作品2点が奨励賞を受賞しました。2年生 S さんの「塔のある風景」（下左の作品）と1年生 M さんの「蝶」（下中の作品）でした。



1年生 M 子 奨励賞に受賞したという知らせは、朝学活で学級担任の先生から聞きました。とてもびっくりしました。日曜日にジュニア展を観に、家族で出かけました。周りの他の人の作品がとても上手なので、私の作品がそれと一緒に飾ってあってもいいのかなと思ったりしましたが、家族から「よかったね。おめでとう。」と声をかけられて、ようやく嬉しい気持ちが湧いてきました。

平成 30 年度生徒会役員が決定しました

先週 11月28日(火)から生徒会役員選挙のための選挙活動が行われ、立候補生徒とその責任者が毎朝早い時間から生徒玄関前で選挙活動に取り組みました。また、12月4日からは給食時間の校内放送を利用して、各立候補者が、自分が目指したいこと・がんばりたいことを全校生徒に伝えていました。7日(木)の立会演説会では、各候補者が、佐中生徒会の今まで以上の活性化に向けての自分の思いを堂々と全校生徒に伝える立派な姿が見られました。



放課後の選挙ポスターづくり



朝、登校時の選挙活動



緊張感いっぱい
の立会
演説会



投票の様子

『日進月歩 全校に貢献』 新生徒会長 2年男子S

生徒会長に立候補しました坂井結喜です。私は、公約の「+1BOX(プラス・ワン・ボックス)の効果的な活用」や「毎日のあいさつの向上」の実現を目指し、学校生活をより良いものにしていきます。

まず1つ目の公約である「プラス・ワン・ボックスの効果的な活用」についてお話しします。今、このボックスはあまり使われていないのが現状だと思います。これは生徒会活動や生徒の皆さんの学校生活をよりよりよくするためのものなので、1・2学期末の佐中フェスティバルや清掃縦割り班の顔合わせの時に生徒のみなさんの意見や感想を募集するときに活用したり、学期始めなどにも全員に用紙を配り、一斉にボックスへ意見を書いてもらったりということも実施していきたいと思っています。何よりも、生徒一人一人の意見に基づいた生徒会をつくっていきけるようにがんばります。

2つ目の公約である「毎日のあいさつの向上」では、スマイルウイークの期間を中心に、全校生徒が笑顔であいさつができるように呼びかけていきます。また、スマイルウイーク期間にも、生徒のみなさんに、あいさつ向上につながるユニークな活動として取り組んでみたいことについて、プラス・ワン・ボックスを活用して募集したりしながら、これまでは無かったような新たな活動を取り入れていきたいと思っています。私は、生徒会長として、生徒全員の意見を少しずつ学校生活や生徒会活動に反映させながら、その場、その時にふさわしい生徒会活動を行っていこうと思っています。特に、あいさつ活動では、応援団をはじめ様々な委員会と協力しながら、さらに向上させていきます。どうぞよろしくお願ひします。



第2回学習強調週間 & メディアコントロール週間 結果報告

第2回

学習強調週間 & メディアコントロール週間

期間 11月13日(月)～11月21日(火)
 期末テスト 11月20日(月)、11月21日(木)



<学習時間>

11月	13日(月)	14日(火)	15日(水)	16日(木)	17日(金)	18日(土)	19日(日)	20日(月)
1年生	合計時間 3105分	2800分	3080分	3175分	3571分	6750分	7415分	5005分
	平均時間 163分	147.4分	163分	167.1分	188分	355分	401分	263.4分
2年生	合計時間 3381分	3790分	3740分	4025分	3840分	5860分	7780分	4705分
	平均時間 147分	164分	170分	175分	166分	250分	338分	235分
3年生	合計時間 7500分	7550分	3195分	3005分	2880分	4690分	5750分	3260分
	平均時間							

<メディア使用時間>

11月	13日(月)	14日(火)	15日(水)	16日(木)	17日(金)	18日(土)	19日(日)	20日(月)
1年生	合計時間 935分	950分	850分	740分	785分	1690分	1705分	985分
	平均時間 49分	50分	44分	39分	41分	89分	89分	52分
2年生	合計時間 1330分	985分	930分	1000分	885分	1075分	1340分	855分
	平均時間 57分	42分	42分	43分	42分	47分	63分	37分
3年生	合計時間 1330分	1100分	635分	690分	760分	885分	930分	675分
	平均時間 83分	69分	40分	43分	48分	45分	58分	42分



保健委員長 3年女子 R

今回のメディアコントロール週間は、前回に比べてメディア使用時間の平均時間が多くなっています。メディア使用時間は、自分の意識次第で減らすことができます。メディアコントロール週間の期間に意識できるように、次回は、メディア使用時間を減らすことができるように心掛けましょう。

3年生は受験が近づいてきています。メディア使用時間を減らし、学習時間を増やせるようにがんばりましょう。

2学期期末テストを終えて 保護者のみなさんの感想やアドバイス

毎日、自分で計画を立てた課題をコツコツとこなしていました。「継続は力なり」の言葉の様に、日々努力する姿が見られ、頑張りました。(3年保護者)

集中して勉強に取り組んでいました。努力は必ず実を結びます。体調に気を付けてがんばってください。(3年保護者)

集中して勉強できるようにがんばってほしいです。毎日の学習をコツコツとやれば、テスト前にあせらなくてよいと思います。目指せ！300点！(2年保護者)

見直しにしっかり時間をかけて、繰り返しやった成果が結果に出たのだと思います。苦手科目をがんばって学習していて素晴らしいです。自分なりの学習方法を見出せてきているので、この調子でがんばってほしいです。(2年保護者)

テストの結果は目標に届きませんでしたでしたが、早めにテスト勉強をスタートしたことは良かったと思います。次回は、時間よりも、集中して取り組むことを目指してください。よくがんばりました。(2年保護者)

2年生になってからのテストでは一番勉強していたと思います。この調子でがんばってほしいです。(2年保護者)

かん違いや単純なミスをテスト当日にしないようになるとうれしいと思います。(2年保護者)

これまでリビングで勉強していましたが、今回は自分の学習机に向かってやっていたので、短時間でも集中して勉強ができたのではないかと思います。(1年保護者)

「次、がんばる！」が多すぎます。もっと計画的に毎日少しずつ頑張ってみては？自分に甘すぎるよ。(1年保護者)

前回よりも学習時間は増えましたが、内容が難しくなっているため、点数があまり伸びませんでした。今回の反省を次に生かして、がんばってほしいです。(1年保護者)

3年生 国語「交流型スピーチをしよう」

佐々木中学校では、「表現する力」を大切に考えています。これは、先日、実施された「佐々木の子どもたちの未来を語る会」(※ 29.9.21(木)実施 佐々木中学校だより 11号参照)で話し合われたことでもあります。保護者の皆さん、地域の方々、教職員、そして何より生徒が「表現する力」の大切さを感じ、その力を付けたいと願っています。

例えば、国語科では、1年生から3年生までスピーチを計画的に行っています。国語の時間で学んだことを、他の教科、学校行事や生徒会活動、または、学校内だけでなく学校外でも使えるようになってほしいと考えています。教室での学びが自分のものとなって、社会のいろいろな場面で使えるようになるといいですね。汎用的な力を付けるため、学校ではカリキュラムを工夫しています。

12月6日(水)は、「交流型スピーチ」を行いました。交流型ですので、仲間のスピーチに対して、質問したい人が質問します。今回のテーマは『今を生きる自分を支える言葉』を題材に、仲間に自分の思いを伝えようでした。書写の時間に一人一人が書いた『今を生きる自分を支える言葉』の中から、一作品を選び、作品を仲間に見せながら、自分の思いを伝えました。



反省って後悔とは違うんです。ぼくにとってお風呂の時間はとても前向きになれる時間です。

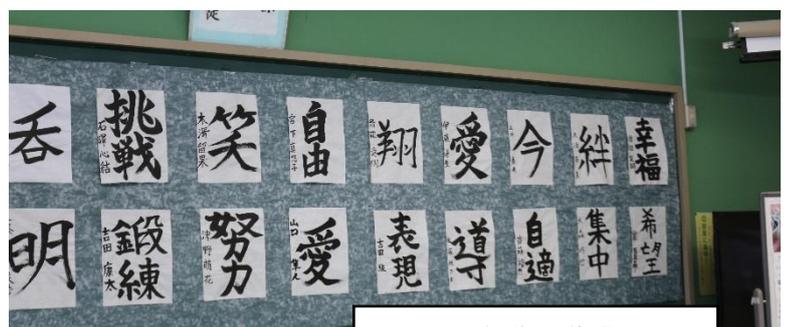
『今を生きる自分を支える言葉』に関するエピソードを通して、自分の思いや考えを伝えた生徒が多かったです。また、質問する力がすばらしく、スピーチの「内容が広がるような質問」、さらに「内容が深まるような質問」が数多く出されました。さすがは三年生です。このような主体的・対話的で深い学習が成立するのも、三年生の学級風土が「支持的」だからです。残りわずかな中学校生活ですが、最後まで、精一杯、仲間と力を付けていってほしいものです。



3年生の作品



12月14日(木)から19日(火)まで、作品展示が、3階で行われています。期末保護者懇談会にご来校の折に、ご覧ください。



1年生の作品

11月～12月の学校生活から



12月1日からスクールバス運行がスタート



2階から3階への階段踊り場に掲げた垂れ幕



3年男子の除雪ボランティア



新潟日报社編集委員による「宇宙」の授



Y先生と雪合戦



1年生&3年生が合同で「小煮物」づくり



3年生 ケーキづくり



今年初めての積雪 雪だるまづくり



スマイルウイーク 登校する生徒とハイタッチ